

しゃべっている時は極めて普通、でも「考えていることは相当ひねくれている」と言う川村さん。気になることを徹底的に調べて準備し、そこから物語を紡ぎ出す。だから川村さんの小説は心に刺さる。映画も本もヒットするのは「必然」だったんだ!

◆横浜で醸成された「川村元気」

人間は本当に理路整然としていない動物だと思います。その感覚は大学生まで過ごした横浜時代のねじれた幼少期から始まっています。

近くに森があり、幼稚園に通わず虫取りをする毎日で、虫が世界のすべて(笑)。海も近く、釣りもしました。何も見えない海の中で、魚が自分の投げたエサに食いつくという、計算だけではどうにもならないところが好きでしたね。

小学校の図工の授業でピンクの粘土板を持っていったら、周りの子が「なんで女の粘土板持ってきてんの?」と。僕は粘土が黒くて汚いからピンクの方がきれいじゃん、と思って選んだけど、それは女の色だという。「なんで?誰が決めたの?」って。

昔から俯瞰して見る、という癖はあったような気がします。学生時代に荘子の「胡蝶の夢(*1)」を読んで「この人の言っていることは本当だ。自分も長い夢の中にいるのかもしれない」と。いまだにそう思っています。

(*1 夢の中で胡蝶としてひらひらと飛んでいた所、目が覚めたが、はたして自分は蝶になった夢をみていたのか、それとも今の自分は蝶が見ている夢なのか、という話)

◆映画の魔法にかけられる

3歳の時に父に連れられ、横浜の映画館でE.T.を見ました。初めての映画観賞は暗くて怖かった。だけどエリオット少年が自転車にE.T.を乗せて飛ぶシーンで、席から立ち上がってしまうほど感動した。その時から映画に夢中です。23歳の頃、映画館で働いていた時にデジタルリマスター版のE.T.が上映されました。僕は、映像と音楽がいちばん美しく重なり合い、かつE.T.とエリオット少年の友情がいちばん深まるドラマチックな瞬間で再び号泣。3歳ですでにスピル

バーグの魔法にかけられていたんだな、と思いました。

◆小説を書こうと思ったきっかけ

映画の仕事をしていて、小説を書くきっかけをくれたのは、「怒り」や「悪人」を一緒に作った吉田修一さん。小説でしかできないこと、音楽でしかできないことって何だろう、と考えるようになりました。

たとえば「世界から猫が消えたなら」や「四月になれば彼女は」というタイトルを映像にしてください、って言われるとすごく困る。タイトルを聞いた時、頭の中にシーンはよぎるけど、映像にしづらい。その感覚を小説で書けばいいんだな、って。一方で、映画は音が鳴らせる。音楽の力は多大で、これはもう歯ぎしりしても文章ではどうすることもできない。じゃあ音楽を聴いているような小説にすると、それだけでちょっとユニークなリズムが生まれるんじゃないだろうか。そう考えて「四月になれば彼女は」は「音楽的な小説」を目指して書きました。

映画はみんなが高めていく作業ですが、小説は自分の中を掘っていく作業。自分が書いた様々な事柄が、計算したわけじゃないのにきれいに繋がっていく瞬間がある。小説を書いていて面白いのはそこですね。

◆「四月になれば彼女は」

サイモン&ガーファンクルの曲「四月になれば彼女は」は4月から9月までの、恋愛の一番輝いた時間を綴った歌ですが、恋愛ってむしろ、「そのあと」を、どう乗り越えていくかが切実。日食のように感情が重なっていた時代が終わったあと、どうやって二人で一緒にいる意味を見つけていくのかを、あの曲を歌い繋ぐように書いたら面白い小説になるかもしれない、と思ったんです。それで12ヶ月の物語を書きました。歌のように



作家・映画プロデューサー
川村 元気さん
Genki Kawamura

1979年、金沢区生まれ。上智大学文学部卒。映画プロデューサーとして「電車男」「告白」「悪人」「モテキ」「バケモノの子」など話題作を次々と送り出し、昨年は「君の名は。」「怒り」などのヒット作も手掛けた。2011年には優れた映画製作者に贈られる「藤本賞」を史上最年少で受賞。2012年に発表した初の小説「世界から猫が消えたなら」はミリオンセラーに。2作目の「億男」は中国で映画化が進んでいる。3作目となる「四月になれば彼女は」が昨年11月に発売された。

小説を書いたらどうなるんだろう、というところが一つのアイデアになっています。

恋愛感情を掘っていくと、現代の幸福論が見えてくるのではないだろうか、と考えました。大人になって恋愛感情がなくても平気なふりをして生きているけれど、ふと立ち止まった時、平穩に過ごしている今と、誰かのことが好きで嫉妬に苦しんでいた学生時代と、どっちが強く生きていただろう?幸せだっただろう?そう思うと、意外と後者だったりするんじゃないか。物事を荒立てないで生きることって大して幸せじゃないし、結局、地獄への坂道を緩やかに下っているだけなのでは、と思ったのです。

100人以上に取材をしましたが、恋愛において、みんな現状に納得していないし、いい方向に向かいたい、と願っていました。だから無責任に絶望で終わるのは止めようと思って書きました。なのであの小説は「恋愛に関する希望」を描いたつもりです。

◆「死」「金」「恋愛」、次は?

死、金、恋愛の三つは人間が絶対自分ではコントロールできないものだと思っています。だから克服できないし、解決できない。今、四つ目を見つけたところで、それは「記憶」です。何を覚えていて、何を忘れてしまうのか、誰もコントロールできない。でもそれこそが人間を決めているものだと思うんです。人間を決めているのは何を体験したかではなく、何を忘れられなくて、何を忘れてしまうか、だなと。「記憶」をテーマにして小説を書きたいな、と思っています。認知症も増えているし切実な問題だと思います。そこが自分の中に引っかかって、徐々に色濃くなってきました。まだ構想の段階なので、発表できるのは2年後かな。

「四月になれば彼女は」
川村元気 著 文藝春秋
1,400円+税 ※絶賛発売中



初心者対象 手結びのきもの着付教室

無料受講券 2ヶ月全8回 プレゼント!

【主催】彩きもの学院

◆カリキュラム◆

ゆかたの着方と半幅帯、普段着の着方、名古屋帯のお太鼓結び、フォーマルの着方、袋帯の二重太鼓結び(全て手結びで行います)

※着物、長襦袢、帯の貸し出し有り(全8回3,500円)

◆開講要項◆

期間/週1回の2ヶ月 (応募者には開講日の1週間前に受講券を送付)

定員/各時間20名

受講料/無料 ※但し教材費として期間中5,900円(税込)必要

教室	5月生		6月生		時間	会場
	コース	開講日	コース	開講日		
横浜	木曜	5/18	金曜	6/23	A・B・C	横浜駅西口 歩4分
銀座	木曜	5/18	火曜	6/13	A・B・C	有楽町駅銀座口 歩5分
渋谷	木曜	5/18	火曜	6/13	A・B・C	渋谷駅東口 歩5分
新宿	金曜	5/19	木曜	6/15	A・B・C	新宿駅西口 歩5分

A(10:00~12:00)/B(13:30~15:30)/C(18:30~20:30)

彩きもの学院

お申し込みは「ヨコハマよみうり」係へ

http://www.saikimonogakuin.co.jp/

☎ 0120-073005

